



H A N G A 版 F A C T

Vol. 54
2017年2月
~6月号

横尾忠則 HANGA JUNGLE 展

2017年4月22日(土)~6月18日(日) 月曜休館
一般800(600)円／大学・高校生、65歳以上=400(300)円
4/22(土)(展覧会初日)は入場無料・()は20名以上の団体料金

2015年に高松宮殿下記念世界文化賞を受賞し、現在、美術家、小説家などとして活躍する横尾忠則（1936年生まれ）は、1968年から現在までに230点を超える「HANGA」を制作しています。今回、それらのほぼ全てを展示する大規模な展覧会を開催し、HANGAを通じて横尾忠則の表現の全貌に迫ります。

横尾忠則は1960年代にエロスと妖しさがただよう総天然色のデザインでアンダーグラウンド演劇のポスターを制作して以来、グラフィズムによって時代の流行をつくりだし、日本文化をリードするデザイナーとして注目を浴びます。それ以後、「時の人」としてさまざまなメディアに取り上げられますが、その一方でHANGAの制作にも積極的に取り組んでいきます。1982年に「画家宣言」を発した後もペインティングと併行して、版画の枠を超えた作品を制作し続けています。

本展覧会はタイトルにある「HANGA」と「JUNGLE」をキーワードに、横尾忠則の表現の軌跡とその内容を紹介するものです。世界的に通用する「HANGA」という英単語を使用することで、古典的イメージが付随する「版画」とは違う、「超版画」であるという意味を含ませました。また「JUNGLE」という言葉には、直感と衝動によって森羅万象が描かれた横尾作品の表現の多様性と、生物の共生によって多様で複雑な生態系が形成され、原始が残るジャングルのイメージを重ね合わせています。

本展はこれら2つのキーワードに沿って、横尾忠則のスーパーHANGA群をJUNGLEのイメージで壁面を埋め尽くすように展示し、HANGAの群生による驚異の表現世界を出現させることを目指しています。その空間とHANGAからは、思考や論理を重視したモダニズムに抗う横尾の創作姿勢の今日的な意義や現代版画の未来を見える化させることができます。

本展のみどころ

■HANGAの大回顧展 ほぼ全点のHANGA約230点を展示。1960年代から最新作までのHANGAが見られる空前絶後の大回顧展!!

■ここはJUNGLE!? 圧巻の展示空間! 横尾のHANGAで展示室の壁を埋め尽くします。常に制作スタイルを変え続ける横尾のHANGAが並ぶとそこは、多種多様で複雑な生態系が形成されたJUNGLEのよう。展示室が総天然色の空間に変わります!!

■超のつくHANGAが見られます なぜ「版画」ではなく、「HANGA」なのか。理由はこれまでの「版画」のイメージを変えてしまう作品群だからです。巨大なHANGA、ポスターのようなHANGA、絵画のようなHANGAが大量に展示されます!!

(学芸員 滝沢恭司・町村悠香)



横尾忠則 《風景 No.13 赤猫》 1969年
シルクスクリーン・アクリルフィルム、紙 個人蔵



横尾忠則 《葬列II》 1969~1985年
シルクスクリーン・アクリルプレート 当館蔵

展示構成

- I 1968~70 作業プロセスの作品化
版と刷り
- II 1973~74 楽園幻想と千年王国
- III 1980~84 画家宣言 ドローイングからペインティングへ
- IV 1984~86 肉体と自然
- V 1986~91 名画の引用 私的絵画へ
- VI 1990~現在 今昔物語
- VII HANGA

〈有料の展覧会について〉

※中学生以下は入場無料 ※身体障がい者手帳または愛の手帳をお持ちの方と付き添いの方一名は入場料は半額 ※友の会会員は会員証を提示すると無料
〔休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、3月21日（火）〕

企画展 吉例浮世絵大公開！江戸ノスタルジア

2017年3月11日(土)～4月9日(日)

月曜休館 ただし3/20(月振)は開館、3/21(火)は休館
一般600(500)円／大学・高校生、65歳以上300(200)円
3/11(土)(展覧会初日)は無料*()内は20名以上の団体料金

明治の幕開けにより新しい西洋の文化が入り込んだ「江戸」の街は、徐々にその姿を「東京」に変えていきました。人びとは文明開化の波を受け入れる一方で、旧幕府時代を批判的に捉えた新政府の態度や急速な社会の変化には戸惑いも感じていたようです。江戸に関する記録書が相次いで刊行され、また明治22年(1889)には旧幕臣による「江戸開府三百年祭」が開催され、江戸への郷愁も高まっていました。

浮世絵界では、文明開化の諸相を鮮やかな色彩で表した「開化絵」と呼ばれるジャンルが生まれ、明治10年(1877)には西南戦争を描いた時事的な戦争画が数多く出版されました。一方で、過ぎ去った江戸の面影を題材とし、人びとの心情に寄り添った作品も生まれています。例えば、明治を代表する浮世絵師・月岡芳年の「風俗三十二相 うるささう 寛政年間処女之風俗」は、タイトルが示すとおり、猫とじゃれ合う寛政年間(1789～1801)の女の子が描かれています。愛らしい女の子と、お揃いの布の首輪をつけられ満足げな猫。普遍的な飼い主とペットの光景ですが、女の子は燈籠髪に島田髪という制作当時から100年も前に流行したヘアスタイルをしています。天保10年(1839)に生まれた芳年は、当然この寛政年間の少女に出会ったことはありません。しかし、文明開化の陰で忘れられつつあった江戸美人のファッションや髪型に、江戸に対する郷愁や憧憬といった感情を反映させたのではないでしょうか。芳年はこの『風俗三十二相』シリーズで、江戸から明治に生きた女性たち32人の姿を描きました。

本展ではほかにも、江戸の年中行事やリアルタイムでは決して描くことのできなかった江戸城や大奥を題材にした浮世絵もご紹介します。明治だからこそ描けた「江戸」のなつかしの情景を、ぜひお楽しみください。

(学芸員 村瀬可奈)



月岡芳年

「風俗三十二相 うるささう 寛政年間処女之風俗」
明治21年(1888) 当館蔵

ミニ企画展

「11人のポップ・アーティスト」

入場無料

2017年4月12日(水)～6月18日(日)

ポップ・アートの「ポップ」には、「popular=ポピュラー」に由来する言葉と「pop=ぽんとはじける」という言葉の、ふたつの重なった意味があります。1950年代のイギリスで誕生し60年代のアメリカで華やかに花開いたポップ・アートは、大量消費社会からまさに「ぽんとはじける」ように登場して一躍人気となりました。雑誌、漫画、報道写真、商業広告や商品そのもののイメージなどを自由に取り入れ、「お堅い」芸術の世界をより身近なものへと変えようとしたのです。このミニ企画ではポップ・アート全盛期のニューヨークで1965年に出版されたポートフォリオ、『11人のポップ・アーティスト』全33点をご紹介します。トム・ウェッセルマン、アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンスタイン、アラン・ダーカンジャロ、ジム・ダイソン、ピーター・フィリップス、ジョン・ウェスレイ、ジェイムズ・ローゼンクライスト、メル・ラモス、ジェラルド・レイング、アレン・ジョーンズ。そうそうたる美術家による版画作品を収録した50部のエディションは、ニューヨーク近代美術館やメトロポリタン美術館ほか各地の主要な美術館に収蔵されています。50年以上も前に制作したとは思えないような奇抜さ、新しさをぜひお楽しみください。

(学芸員 高木幸枝)

第18回ゆうゆう版画美術館まつり 報告

2016/10/8(土)、10/9(日)実施

「版画でひろがるアートの町田」

二日間とも午前中降雨に見舞われましたが、おかげさまで事故もなく、例年に増して盛大に行なうことが出来ました。「市域学生によるアートイベント」が1年ぶりに復活。また新たな試みとして「まちだサポートーズ」の採用や市の社会実験として会期中シャトルバスの運行がありました。19団体によるチャリティ・アートバザール収益金の一部92,135円は町田市社会福祉協議会へ寄付されました。

まつり運営委員会より報告



友の会「アートスクール」 木版画講座を受講して

2016/7/28~8/31 全6回実施



講座風景

美術とは縁遠かった私が友の会に入会し、講座を受講させていただくようになりました。今回も暑い季節の木版画講座でしたが涼しいアトリエで楽しく受講出来ました。木版画講座は前半は版木に図案を色別に転写し彫り始めます。彫る音がサクッサクサクとあちらこちらから聞こえ、私にはその音が心地よくて作品作りの意欲を高めてくれます。先生は講座中に何度かデモンストレーションをして下さいます。新しい手法、道具の手入れ使い方等々、興味津々聴き入り見入ります。後半は刷りで多色刷りは版木の枚数以上の色を作り出すことが出来、色々なばれんの使い方で思いもよらない模様や色合いに刷り上がり楽しくなりました。講師の佐竹先生とアシスタント大平さんはどの様な質問にも丁寧に指導して下さいました。受講生の方々も制作方法を聞くと教えて下さいました。

お陰で無事に作品を仕上げることが出来ました。皆様有難う御座いました。

友の会会員 谷口ミチ子

私の一枚 「踏みつけられた草」 テンペラ 1951 アンドリュー・ワイエス

ここに1冊の画集がある。「ワイエス 画集 カーナー農場[1944-1975]」1981年に出版された本である。何時頃だったか覚えていないのだが、A・ワイエスの作品を知ったのは大学を卒業した後だったと思う。デッサンや水彩画と出会って衝撃のようなものを感じたのを今でもそれだけは覚えている。書店でその画集を見つけた。収録作品はすべてが秀作であり魅力にあふれていた。単に写実という言葉では言い表せない絵の力がみなぎっているように思えた。それは空気や温度さえも感じる自然。生き生きとしてその息使いまで聞こえてきそうな人物の存在感に驚かせられた。デッサンはラフスケッチのようでもあるが、緻密で軽いタッチが的確であり対象を見事に形成していく、しかも作品として完結していることに驚き惹かれていた。「踏みつけられた草」はテンペラで描かれている。荒野を歩む人物。厚いコートの下は皮のブーツ。一見、無造作に見えるが細密に描かれたテンペラ特有の表現を生かした枯れ草の重なる荒涼とした野。上部にはかすかに雪の積もった丘とどんよりした空が見える。その絵は水彩画とは異なる魅力があり、その重量感のある歩みの動きが一層の存在感を描き出している。画集の解説によれば「画家は孤独な道を歩き続ける」とある。



友の会会員 大西 均

友の会だより

第18回会員展開催

2017/3/14(火)～3/20(月)実施

友の会活動のメインイベントの1つである会員展が本年も開催されます。友の会会員が日常制作した作品、アートスクールで制作した作品、サークル活動での作品などを展示します。会期中の抹茶サービスや森のコンサートもございます。くつろぎの時間を大いにお楽しみください。

森のコンサート

“やよい3月春の歌”

2017/3/18(土) 13時、15時
エントランスホールにて開催

西野 薫 ソプラノ

工藤和真 テノール

岩田安由真 ピアノ



例年大好評の友の会主催の演奏会です。

入場無料。春の歌声をご堪能ください。

町田市立国際版画美術館友の会 第20回定期総会

2017/4/22(土) 館内講堂にて

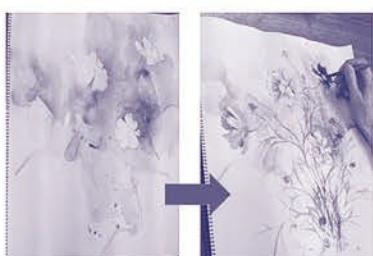
皆様ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

友の会「アートスクール」 絵画教室

2016/9/16～11/18 全5回実施

今回の静物画のモチーフはコスモス。まずは野澤奈穂子先生の華麗なる技を存分に学び、後半はそれぞれ

が持参した写真を基に、心の色を足して水彩画を完成させました。(nk)



「野澤マジック」

友の会会員募集中!

《会の目的》・版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上
《主な特典》美術館企画展がすべて無料で観覧、友の会主催行事に参加できます♪

《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会年3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)

※申し込みは友の会事務局へ

予定

各種講座・サークル予定

■友の会会員のサークル活動

△木版画俱楽部

毎月第4水曜、木曜 13～16時 友の会事務所にて
毎月原則第2土曜 13～17時 美術館アトリエにて
4月よりカレンダー作り開始し、10月末までに完成予定。10月より年賀状作成。

△弥次喜多俱楽部

2017/3月 神戸の美術館巡り
2017/秋 近隣の美術館巡り
2018/3月 奈良の美術館巡り
2018/秋 近隣の美術館巡り

■美術セミナー

『江戸ノスタルジア』 2017/2/15(水)

13:30～14:30 館内講堂にて

講師：村瀬可奈学芸員 参加費無料

月岡芳年、豊原国周、楊洲周延ら明治の浮世絵師が描いた記憶の中の江戸美人、四季折々の風景、江戸城や大奥などの情景を紹介します。

事務局だより

○町田市立国際版画美術館運営協議会

(オブザーバー参加) 8/23

○文化庁通達（催事火災事故対応）11/15

○合同部会 11/18、12/6、2/7

○第18回会員展実行委員会 11/18、12/6、1/17、2/7

会員展実行委員会委員長：竹之上正隆、副委員長：清水敬造、大久保知明 顧問：荒井良一

会期：3/14～3/20(会期中呈茶・森のコンサート)

○次期役員候補推薦委員会 1/24

○内覧会 9/30(ホックニー展)、4/21(横尾忠則展)

○2017年度定期総会 4/22

○第18回ゆうゆう版画美術館まつり関係

運営委員会・催事リーダー会 9/2、9/27、11/22

まつり開催：10/8、10/9

○総務部・広報部会 12/20

編集後記：Han版Fanの編集は発行日の約2ヶ月前から始めます。「地味に凄く」までは到達できませんが、誤字・脱字はないか日付は間違えてないか地味に活動しております。(nk)

編集スタッフ：浅野 茂・井戸上千鳥・岡田節子・黒田奈生子・清水敬造